

2024年11月24日  
株式会社トーモク  
イノベーション推進室

## 「段ボールワークショップ2024」を開催

昨年に引き続き、2024年9月と10月の2回にわたり、トーモクは東京大学との社会連携講座の一環として「段ボールワークショップ」を開催いたしました。本ワークショップは、段ボールという素材の新たな可能性を探求し、革新的なアイデアの創出を目的として実施しました。

今回のワークショップには、トーモクグループ各社のメンバーだけでなく、株式会社良品計画の取締役会長である堂前宜夫様と中川製紙株式会社営業本部の桜井俊介様、および株式会社カメガヤの経営統括役である宮崎文隆様、さらには株式会社トラストアーキテクチャの代表取締役社長前川智英様にもゲストとしてご参加いただくなど、多くの参加者が集いました。さらに、東京大学大学院工学系研究科の大澤幸生教授（「チャンス発見学」、「賑わい学」専門）、特任研究員の関口海良先生、大学院生達、そして大阪大学大学院経済学研究科の松村真宏教授（「仕掛学」専門）にも参加していただき、第1回は東京大学本郷キャンパス、第2回は丸の内のトーモク本社にて議論を深めました。



参加者たちは、AとBの2つのチームに分かれ、段ボールの特性を活かした新たな製品やサービスのアイデアについて熱心に話し合い、活発な議論を行いました。

Aチームでは、段ボールの素材本来の魅力を最大限に引き出し、環境負荷の低減やコストダウンにつながる製品やサービスの提案が行われ、物流全体の最適化を狙いとした、シンプルで機能的なデザインによる業務の効率化や新たな市場ニーズに応えるアイデアが話し合われました。

Bチームでは、段ボールの持つユニークな特性を活かし、顧客に新たな体験価値を提供するエンターテ



インメント性の高いアイデアが提案され、顧客参加型の製品やサービスを通じて、顧客満足度の向上やブランド価値の向上を目指す議論が行われました。

ワークショップの終盤には先生たちからのフィードバックが行われ、大阪大学の松村真宏教授からは、「仕掛学」の観点から、段ボールを活用した新たな体験価値の創出について、東京大学の澤幸生教授からは、「賑わい学」の観点から段ボールの素材の本質を活かす重要性和、それがもたらす「チャンス発見」についてについて貴重なご意見をいただきました。

今回のワークショップで生まれた多くのアイデアをもとに、トーモクは今後、具体的な製品開発や事業展開を進め、試作品の開発や実用化に向けた検証を行い、市場導入を目指します。また、産学連携を一層強化し、オープンイノベーションを推進することで、段ボールの可能性をさらに広げてまいります。

